

HSK NPO 法人 「文福」 ニュース ❀❀❀❀

☺ 「障」ちゃん

❀❀❀❀❀❀❀❀❀❀❀❀❀❀❀❀ NO.224

冒頭の一言

障ちゃん肉

皆さんあけましておめでとうございます。今年は戌年です。2018 年、どんな年になるでしょうか。ただ、言わずもがな冬ということで、雪がちらついています。車イスユーザーにとっては出かけにくい季節ですねえ。雪に負けずにお外へ出れば良いじゃないかと、どんどん遊びに行ったら良いと、人事ながら思います。ただその場合は、風邪や転んだりなどなどの事故には気をつけましょう。

とはいえ、自分は冬は外よりも家派です。ちょっと試してみただけです。ということで、暖かい家にてゆったりしながら、ニュースを読むのも一興です。ごゆるりと飲み物を片手に読んでいただければと思います。

では、本年も「障ちゃん」ニュースを宜しくお願いします。

—もくじ—

冒頭の一言 … 1	新年のご挨拶 … 2-3	もちつき大会のお知らせ … 4
優性？顕性？ 日下正秀… 5-6	Penko … 7-8	富山駅の 八木勝自… 9-10
総会講演議事録 … 11-14	運営会議報告 … 15	今後の予定 … 16
メール配信 … 17	ありがとう+編集後記 … 18	

一九九四年八月四日第三種郵便物承認
工 業 振 興 法 第 三 十 三 号 第 三 種 郵 便 物 承 認 第 一 号

2018 年の新年のごあいさつ

NPO 法人文福理事長 八木勝自

2018 年開化新年明けましておめでとうございます。今年も文福の皆さんやこの「障ちゃん」ニュースの読者の皆さんが皆健康で皆さんが活躍できる年になるように文福の理事長として、切に願っています。そして、ここでは新年のごあいさつ代わりに上記で書いた皆が活躍できるという事について書いてみたいと思います。

まず最初に「活躍」とはどういう事かということ。「活躍」とは自分の役割を果たすということです。この自分の役割とは、時代や社会によって変わるし、人との関係によって変わってきたり、時と場合によっては、様々に変わるものだと思っているし、役割を果たすということは、意識しようが無意識だろうと、その人にとってはやったという充実感があるし、他人からも、信頼・信用されることです。

そのことは障害者で言えば、車イスの障害者が社会参加することで誰でもが利用できる公共交通機関にしたり、誰でもが利用できる、建物や街にすることだったり、介護の必要な障害者や高齢者もこういう言い方も少し変かもしれませんが「介護を受けたり」とか「介護をしてもらう」というのも、立派な役割だと思うし、例えば、意識のないと思える寝たきりの重度障害者を見て、「あの人はこんな役に立たない人間は生きていく価値があるのだろうか」と思うかもしれませんが、ある人にとっては「こんな人でも息をするだけでも立派に生きていくんだから、俺も生きてやろう」と勇気や希望が出る人もいますし、それはその人達の判断であって、その障害者も立派に役割を果たしていると思います。

また、障害者や健全者が賃金労働で働くという事は自分の生活の糧を得るということもあって、社会的な役割の一つだと思っています。しかしこの頃、身内の文福の居宅サービス介助派遣の人を見ていると、なんだか一部の人を除いて介助や介護という仕事だけに来ているという印象をこの頃私は思っています。

それはどういうことかということ、高齢者や障害者の施設は、まさに職員は仕事で来ているのであって、その障害者を管理したり、束縛することになっています。

けれど、私たちが国の制度で、居宅事業として行っている重度訪問介護（介助）とは障害者が自分のペースで生活をしたり、社会参加をしたりするための制度であって、そのためのその一人一人になるべく合わせた長時間介護や外出介護も認められています。

勿論、私は今の文福は高齢者の介護保険以上に職員の手がなくて、忙しくテキパキやったり振る舞うことはある程度仕方ないと思いますが、私は急いでいる時はテキパキやっても良いと思いますが、ゆっくりした時間ももうけて介助者ヘルパーや職員に強弱をつけてほしいと思っています。そうしないと、文福の居宅サービスを行っている重度訪問は障害者の生活や社会参加を自分たちや障害者のペースで進めることであり、介護保険のような単なるテキパキと片付ける仕事（時間内）になってしまいます。私たちの居宅サービスは健全者の一方的なペースで行うのではなく、障害者と折り合いをつけながら、大きく言えば障害者の文化や文明や個人史を紡ぐために来てもらっているのです。

そして働く方の健全者や介助ヘルパーにはそうした仕事でテキパキ働くという事は健康寿命を短くしていったり、ストレスもたまる一方ではないかと思うのです。

どうも私も歳をとって、年頭から年寄りの小言のような年頭挨拶になってしまいましたが、障害者も健全者もどうか自分の役割を考えたり、行動して、全ての人が明るく紡ぎ合って、生きていける社会にしていきたいと思っています。

また関係のないことを書くようですが、スマホやパソコンや機械などは自分の欲望を叶えたり、便利さを叶えたり、情報やイライラを与えたりしますが、人は時には間違ったことや被害を与えますが、人に元気を与えるのは人です。



もちつき大会のお知らせ

来る 1 月 20 日 (土)、毎年恒例のもちつき大会をします。もはや恒例といっても差し支えないだろうと勝手に思っております。お餅をついて皆で食べる…。ただただ、それだけなのですが、皆で楽しんでできれば良いと思っています。お暇があれば参加のほどをお願いします。また駐車場には限りがあるため、なるべく公共交通機関で来て頂ければと思います。

よろしくをお願いします。

+α で色々あるかもしれません。詳しい場所や時間などは下記に。

場所 NPO 法人文福事務所

時間 11 時つき始め

問い合わせ

076-441-6106 (NPO 法人文福事務所)



優性？^{けんせい}顕性？

日下正秀

昨年の9月、日本遺伝学会が、長年使われていた「優性」や「劣性」という用語を使わないことに決めたと発表しました。遺伝子に優劣があるとの誤解を避けるために、教科書の書き方も変更するように関連学会と共に文科省に要望書を提出するそうです。遺伝学では、遺伝子の2つの型のうち、特徴が現われやすい遺伝子を「優性」、現れにくい遺伝子を「劣性」と呼んできました。

今まで、「優性」「劣性」と呼んできた言い方を顕在、潜在という言葉から「^{けんせい}顕性」「^{せんせい}潜性」と表現し直す事にしました。

遺伝とは、生き物の性質や姿形などが、親から子に受け継がれ、今現在の生き残っている生物に至っているということで、平たく言えば、蛙の子は蛙になるという事です。その遺伝を、学問として扱い始めた科学者等によって、生物学が提唱されました。生物学者の一人であるダーウィンは、地球上に現れた最初の生き物からどのようにして今現在存在している多くの種類の生き物に分かれたかと言う事を進化論で説明しました。その中で、生き残ることができる環境に生まれたものはより多くの子孫を残すことができ、そうでないものは滅んでいく。そういう経過で生物が変化してきたと言っているのです。

ダーウィンは、環境の変化によって生き残ったり現われやすい生物や性質を優れたもの、消えていった、隠れて表に出ない生き物や性質を劣ったものとしたのではありません。環境が変われば、生き残るのに有利だった性質はたちまち不利な性質になってしまうのです。しかし、科学者たちはいかにも優れた性質と劣った性質というものが存在しているように、広く一般に思い

込ませてしまいました。その思い込みは確信に変わり、人種差別や障害者差別を正当な科学的根拠のもとに行われているとお墨付きを与えていきました。障害者を劣った不良な子孫と位置づけて、その出生を予防する事を目的とした、旧厚生省が施行していた

「優性保護法」などの法律は、その典型的な例と言えます。「優性」「劣性」と言った言葉は、普通に使われる言葉では無いと思います。しかし、あらゆる人々の心理の中に、組み込まれている考え方と言えます。それは、遺伝学をものしてきた学者達が責めを負わなければならないと思いますが、ようやく間違いを正そうとしてくれたと言う事は評価出来ると思います。これから、どれだけ「顕性」「潜性」という意味や言葉が人々に浸透するかが問題で、教育の場から広げていくべきだと思います。この問題は、障害者ことに生まれつきを始めとする幼い頃からの障害者にとって大変重要なおきます。

日本遺伝学会(会長、小林武彦東京大教授)は15日までに、長年使ってきた「優性」や「劣性」との用語を使わず言い換えることを決めた。遺伝子に優劣があるとの誤解を避けるため。教科書の記述も変更するよう、関連学会とともに文部科学省に要望書を提出する。

遺伝学では100年以上にわたり、遺伝子の二つの型のうち、特徴が現れやすい遺伝子を「優性」、現れにくい遺伝子を「劣性」と呼んでいた。今後は優性を「顕性」、劣性を「潜性」と言い換える。学会は、これを含めて100ほどの用語について変更を提案。「突然変異」の原語に「突然」という意味は含まれていないため、「突然」を除いて「変異」とする。

**「優性」「劣性」
使用やめま**

(日本遺伝学会言い換え)

「色覚異常」や「色弱」という用語についても、日本人男性の20人に1人程度が相当することから、「遺伝子に多様性があるのは自然だ」との意見があり「色覚多様性」と変更する。

日本遺伝学会による用語の主な変更点

変更前	変更後
優性	顕性(けんせい)
劣性	潜性(せんせい)
突然変異	変異
色覚異常	色覚多様性

北日本新聞 2017年9月16日



Penko のおひとりさま 珍道中!! (part 3 4)

現在、スマホ (iPhone) とタブレットを持っています。

スマホを使い始めて、5~6年経ちます。タブレットは3年目かな。

近所の携帯電話ショップで俳優の松山ケンイチさんにちょっとだけ似ている店員さんに教わり、操作に慣れるのに1ヶ月かかりました。右足の指で操作します。下を向いて操作しているので、知らない人からよく「具合悪いんですか？」と声をかけられます。(笑)

スマホは家や外出先で電話・メールやインターネットで情報を見たりしていて、タブレットは家にいてゲームや本を読んだりして使い分けています。

昨年は2度もスマホが壊れました。1回目は7月の「ザ☆カイジョ」の時点で、前日まで操作できたのに、次の日電源入らなくなり研修中に抜けさせてもらい、携帯電話ショップに駆け込みまして、一週間代替機で過ごしました。保険はききました。

2回目は9月に一人で東京に遊びに行き、やりたいことをひととおり済ませてお手洗いに去了。そして不注意でスマホを便器に落としてしてしまったのです。通りすがりの人に拾ってもらい、用を足したあとでよかったなあと思いました。富山に戻るまでへこみました。さらに追い討ちをかけるように、2回目なので保険はきかず、36,000円かかりました。自業自得です。(泣)



なる、ということでしょう。

精神障害者は、特に一年以上長期入院している方は 20 人に 1 人。結構多いと思っています。数も 20 万人くらいおられます。

知的障害者で施設に暮らしている人は 11 万人くらい。長期入院している精神障害者も 20 万人近くいます。これもとっても大きな問題と思っています。

●知的障害者の施設入所の問題

相模原の事件が起きた後に、ぼくは、被害にあわれた方々は、なぜ地域社会で生きることができなかったか、なぜ、地域で支えていけなかったのか、ということを感じました。

事件において施設にいる意思疎通がとれない知的障害者が狙われた、そういう人が生きるに値しないとして狙われたんじゃないかというところが、実は結構ぐさっと刺さっていました。自分の中の活動として、身体障害者の自立生活運動にずっと関わってきたのですが、でもそれだったら知的の人とかがどんどん立ち遅れて行くんじゃないかという意識があって、「そっち頑張らなあかな」ってずっと思い、そしてピープルファーストの活動や、知的障害者の自立生活に関する活動を最近はがんばっていました。

知的障害者の場合、施設訪問とかも正直、やりにくい。つながりがないとなかなか訪問しにくい。

また親とかが「この子施設にいれるわ」と言ってしまうと、僕らがいくら言っても、そして、本人が施設に行きたくないって言っても、「お前そそのかしているだけだろ、言わしてるだけだ

ろ」と、平気で行政とかは言ってくる。そういう経験を結構してて、かなり厳しい現状があるなと感じてました。

こういった中で、僕としては知的障害ある人の施設入所の問題に対してアプローチしきれていないという苦しさがあって、その中で、知的障害者の施設で事件が起きたということで、非常に心苦しい思いがしました。

これは、8 月くらいに書かせていただいたメッセージですけど、自分の気持ちの 1 つの表れとしてここに紹介します。

「何故亡くなる前につなげられなかったのか、今回被害にあわれた方はなぜ施設に入所されていたのだろう。なぜ地域社会で生きることができなかったのだろう。今重度の障害があっても、地域で自立している方は少しずつ広がっている。知的障害があろうと、重複障害であろうと、僕の目の前では地域で自立生活する人達が現れている。

被害に合われた方々は名前すら公表することがはばかられた。彼らは人里離れた施設で隠れるようにしてのみ、生きることが許されていたのであろうか？社会的には忘却されていた方々だったのだろうか？

このような事件という形で、私たちは 19 名の死を追悼しているが、もしこのような事件がなかったら、私たちは亡くなられた方々とつながれる可能性はあったのだろうか？ここにいるどれくらいの方が重度の知的障害者の方が多数入られている入所施設を訪問し、入所施設とつながりを持とうとしたことがあるだろうか？

今回容疑者が狙ったのは、社会からのつながりを断たれた障害者たちだった。事件そのものは犯人が起こしたものだが、重度障害者が地域社会でなく、施設でしか生きることのとできない社会を作ってきたのは私達 1 人 1 人である。厳しい言葉で言えば、今まで見捨てておいて今さら追悼するのは遅いのではないか？

なぜ亡くなる前に私達は彼らとつながることはできなかったのか？なぜ施設に入る前に地域で生き続けること、支援することができなかったのか？

今成人の知的障害者の 5 人に 1 人は入所施設に入っている。実数ではいえば 11 万人。真の意味での追悼は、社会的に忘却されている方々とつながりを作るところから始まるのではないだろうか。」

●障害者虐待について

それから、2011 年頃より、障害者虐待防止法ができてます。毎年厚労省より、障害者虐待についての調査報告が出ます。

虐待被害者の内、知的障害のある人の割合はどのくらいだと思いますか？

ちょっとびっくりするのですが、被害にあった人の内、知的障害のある人の割合は、83%ということですよ。

自分で言えないとか言いにくいとか、あるいはやっても言わないだろう、こいつ、みたいに思われる人が狙われやすいということなのかなと思います。83%って相当な数値ですよ。

それから、どういうところで虐待が起きているか、簡単にデータがあるので紹介します。

入所施設 26%、グループホームも結構多くて 19%、就労 B 日中通所施設 15%、生活介護デイ 13%、放課後デイ、子供達を預かるところですが 10%。

基本的には集合的に障害者を処遇するところ、そういうところで虐待が起きやすいのかなというところがなんとなく見えてきます。

居宅介護は 3%。あるのはあるけどわりと少ない。

重度訪問介護は 1%でした。居宅介護もいわば密室なので、実際難しい部分いっぱいあると思いますけど、データ上はそこまで大きな値は出ていません。

居宅における虐待割合が少ないというのは、そこがまず当事者のおうちであるということ、つまり事業者によって管理された領域でないということは大きいと思います。それから、ヘルパーは入れ替わり入るし、なんだかんだいって地域社会の中なので、他者の目が入りやすい、そういうところで、虐待は起きにくい環境にあるのだと思います。

●障害者の地域自立生活に関する介護制度の歴史

往年の活動家がたくさんおられる文福さんにおいてこの話をするのも気がひけますが、ただ学生さんとかでこういう歴史とか知らない方もおられるかと思うのでちょっと紹介します。

単純なところでいうと老人の福祉制度と障害者の介護の制度は、全然別ルートからきてます。

老人の方が図の右に書いた流れで、図の左が障害者が作り上げてきた制度です。もともと老人も障害者も地域で暮らすための制度がまった

くなかった時代が、戦後ずっと続いてて少しずつ整ってくるのが 1960 年代。まず家庭奉仕員というかたちで、身寄りのない低所得の老人についての制度が開始します。

重度の障害者が地域で暮らすための制度が全くない時代があって、左の青い芝の会、神奈川青い芝の会、関西青い芝の会などの流れの中で、そういう地域で暮らすための戦いから、制度ができあがってきました。とりわけ、在障会や全国介護保障要求者組合の運動は重要です。

今回資料にも「鳥は空に、魚は海へ、人間は社会へ」というのをに入れていて、あれは僕は記念碑的な文章だなと思うんですけど、あれを読むと、1970 年代当時どんな状況だったかわかります。

「介護料経過報告、介護人派遣センターの設立にむけて」また時間のある時によんでください。当時のパンフレットからの引用です。

「障害者に在宅の保障はないのでしょうか、ヘルパーさんは週にたったの 4 時間しかない時代でした。

まず、ボランティアの力を借りて施設を飛び出したんですけども、ある程度ボランティアだけの力があるとはいえ、ボランティアばかりの力を頼ってられません。またボランティアといっても、いくら交代でも障害者の世話ばかりしてもられません。ボランティアの方も他で働かないと食べて生活していくことはできません。月日と共に障害者のトイレ・風呂・車イス上げ下げ。ボランティアの方に腰痛者の方が出たり、互いの感情的なものから、一人二人と

やめたりして、私たちと残り少ないボランティアの生活は行き詰る一方でした。私たちはこのまま地域にいたらまた施設に逆戻りするしかない。何のために施設を出たのかわからない。そこで私達は崩壊そこそこで、障害者が介助者を擁して生活できるような保障・介護料を要求したのです。

当初は月 7, 000 円だったら出します。一ヶ月 7, 000 円だったら 1 日人に使ったら終わってしまう。」

彼らは 24 時間の介護保障を当初から要求してたけども、上記の様にまず東京都に要望した上で、ついで、生活保護の特別加算というかたちで国にも要望していきました。

「国が言うのは私たちは 24 時間介助者に払うお金を計算して国に提出したのです。でも国では最低生活を維持してるお金は出すと言いながら、私たちの提出した書類を見て、『今の社会通念からみてこんな高い介護料を出すことはできない。だけどあなたたちはせっかく施設から出て社会の中で生活しているのだから、今の社会通念から判断して 1 日 4 時間、1 時間 400 円、1 ヶ月 48, 000 円なら認める。それで介護がいなくて生活ができないなら施設に入るしかない。施設に入るなら世話するし、施設職員の予算も出す。』

(文章の途中ですが、ページの都合上、次号に続きます。)

運営会議報告 2017.11.21

- 障害者部会
ノートテイク、富大生にピラを作って持って行き協力を要請しました。
ピープルファーストの大会が11月25日・26日に広島であります。
- 介護人派遣事業部
来年度4月からはコミュニケーション支援事業はなくなり、重度訪問介護
で入院時も適応されます。
ザ☆カイジヨの訪問実習、全部終了しました。
- 障ちゃんニュース
障ちゃんニュースは今、編集中。印刷は11月25日。発送作業は11月
28日。
〈障ちゃんニュースの点字版について〉
富山県視覚障害者協会へ11月15日、問い合わせました。視覚障害者の
方の為にメール配信から始めます。
- まっち
原稿募集中。今回のテーマは〈眠り〉です。
- レクリエーション
12月の〈たぬきマスライブ〉は中止。
12月16日にカラオケ大会をします。
場所 山室のジョイサウンド
- その他
新年会は2月17日 ボルファートとやまで行います。
年末年始の事務所の休みは、12月28日～1月4日まで事務所お休みです。
雪かきバイト
今年は様子見で、朝たくさん雪が降ったりした時など文福のバイトさんに
頼む。
- 次回の運営会議は12月19日です。

報告者 先祖



◆今後の予定◆

このコーナーでは、文福と他団体の今後のお知らせを載せていきますので、チェックして、たくさんの方々にお越し頂ければと思います。よろしくお願いします。

◎ ロービジョンケア講習会

日時 1月14日〈日〉10:00~16:00

場所 富山国際会議場多目的会議室 (富山市大手町1-2)

●展示&相談会 10:00~16:00

日常生活用具給付対象器具・補装具などの展示

音声パソコン・スカイプ(インターネット電話)盲導犬体験

盲ろうコミュニケーション体験 サピエ図書館体験など

「サピエ」とは、視覚障害者を始め、目で文字を読むことが困難な方々に対して、さまざまな情報を点字、音声データなどで提供するネットワークです。

●講演会 14:00~16:00

演題 「ipad、iphoneなどのITC端末を用いた情報ケア」

講師 三宅 琢氏 東京大学先端科学技術研究センター人間支援工学
特任研究員など

●同時開催 見えない・見えにくい人のための視覚障害便利グッズ
展示&相談会

◎ もちつき大会

日時 1月20日〈土〉11:00~つき始め

場所 文福事務所

参加費 無料

主催・問い合わせ 夢宙人 TEL (076) 441-6106

メール muchu.jin.55@gmail.com

・お知らせ

昨年12月17日(日)NHKの番組「ともに、輝く」多様性のある社会へへの収録があり、文福から森田・居石(すえいし)が出演しました。この模様は1月26日(金)19時56分からNHK総合テレビで放映されます。よろしくお願ひ致します。

ニュースの視覚障害者の方へのメール配信再開のお知らせ

この度、一旦お休みしていた視覚障害者の方へのニュースのメール配信を再開しようということになりました。

文福の月刊誌、「障ちゃん」ニュースを紙媒体ではなく、メールにて配信する形となります。ご希望の方がおられましたら、下記までご連絡下さい。

前回メール配信をさせていただいていた方も改めて連絡をいただけたら幸いです。

メール配信の内容は、写真やイラストを抜いて、音声ソフトで読み上げられるよう文章をゴシック体にて表記します。紙面での発送後一週間以内にメールで配信する予定です。ただし、パソコン・スマホ対応になります。

このメール配信を通じて、より多くの方々に文福のことを知ってもらい、様々な情報を発信していきたいと考えています。またこれが、今の形だけではなく、違った方法での発信を模索するきっかけになっていければと考えています。

今後とも「障ちゃん」ニュース」を宜しくお願い致します。

問い合わせ・連絡先

NPO法人 文福

〒930-0887 富山市五福3734-3

e-mail: bunpuku@arrow.ocn.ne.jp

HP: <http://bunpuku.org/>



TEL/FAX (076) 441-6106

ありがとう&編集後記コーナー

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

今後よろしくお祈いします。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

「障ちゃん」ニュースを内容盛りだくさんでお届けいたします。



本年も「障ちゃん」ニュースを通じて、様々な情報を発信していきたいとスタッフ一同考えています。

2018年は、皆さんにとって「ワンダフル」な年になるといいですね。

*** 物品提供 ***

渡辺 明子さま 居石 真理さま 田中 直美さま 鈴木美明子さま
南保 哲也さま

発行人：北陸障害者定期刊行物協会 富山市今泉312

ぶんぷく

編集人：特定非営利活動法人 文福

〒930-0887 富山市五福 3734-3
e-mail:bunpuku@arrow.ocn.ne.jp
HP: <http://bunpuku.org/>

TEL/FAX (076) 441-6106

定価 50円

※文福の会員の方は、会費に購読料を含んでいます。